

JICA 関係者限定資料

ニジェール

任国情報

JICA LIBRARY



J 1148512 [5]

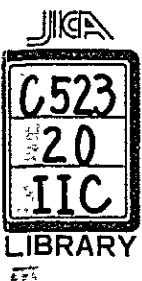
1998年

国際協力事業団

国際協力総合研修所



FROM
MOD
SER
1
STG
11



はしがき

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家などのJICA関係者に、赴任国での生活上必要な情報を提供するものです。

本書の刊行にあたっては当該国に派遣中の専門家などJICA関係者の皆様から多大な御協力を得ました。また、外務省、在外公館、その他関係機関の御好意により、貴重な資料の一部を利用させていただきました。

今後も本書の内容を一層充実させ、常に新しい情報の提供に努めたいと考えております。

本書が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

なお、本書に記載された内容は、当該国に派遣中の専門家などJICA関係者の皆様の執筆を中心にまとめたものであり、国際協力事業団の公式見解ではないことを付記いたします。

平成11年3月

国際協力事業団
国際協力総合研修所長



1148512 (5)

目次

I	概況	i
II	生活事情	1
1.	食生活	1
2.	衣料	3
3.	住宅	5
4.	医療	7
5.	教育	11
6.	家庭の使用人	13
7.	交通事情	15
8.	通信	18
9.	マスコミ	20
10.	教養、娯楽、趣味、スポーツ	22
11.	その他のサービス	26
12.	観光	27
13.	治安、緊急時の心得	29
14.	出入国手続および帰国手続	30
15.	私財の輸送、引き取り、購入	33
16.	社交	34
17.	任国官公庁	35
18.	在外日本関係機関など	35
19.	地方都市	35

I 概況

表-1：ニジェール国概況

正式国名	(和文) ニジェール共和国 (英文) Republic of Niger
独立年月日	1960年8月3日
旧宗主国	フランス
政体	共和制
元首の名称	イブラヒム・バレ・マイナサラ (Ibrahim Bare Mainassara)大統領 (1996年7月8日就任)
面積	北緯11度5分～23度5分 東経0度～16度 1,267千平方キロメートル (注1)
首都	ニアメ
総人口	9.47百万人 (1996年央) (注1)
民族	ハウサ族、ジェルマ族、ソンガイ族、カヌーリ族、トアレグ族、 ドゥーブー族、プール族など
公用語	フランス語
宗教	イスラム教、原始宗教、キリスト教
暦	<p><日本との時差> - 8時間</p> <p><祝祭日> (1999年) (注2)</p> <p>1月1日 新年</p> <p>* 1月19日 ラマダン明けの大祭</p> <p>* 3月28日 犠牲祭</p> <p>4月5日 イースターマンデー</p> <p>4月15日 1974年4月15日宣言記念日</p> <p>4月24日 National Concord Day</p> <p>* 4月17日 イスラム新年</p> <p>5月1日 メーデー</p> <p>* 6月26日 モハメッド生誕記念日</p> <p>8月3日 独立記念日</p> <p>12月18日 共和国宣言記念日</p> <p>12月25日 クリスマス</p> <p>(*日が変わる可能性のある祝祭日)</p>

出所 (注1) International Financial Statistics January 1999 IMF

(注2) The Europa World Yearbook 1998 Europa Publications

1. 国土の概要

ニジェールは西アフリカに位置する内陸国で、北緯 11 度 5 分～23 度 5 分、東経 0 度～16 度に位置し、国土の面積は 126 万 7 千平方キロメートルである。北部ではアルジェリア、リビアと、南部ではナイジェリア、ベナンと、西部ではマリ、ブルキナ・ファソと、東部ではチャドと各々国境を接している（数値は世銀資料、1997）。

国土のほぼ中央にはアイール山地があり、これに対峙して北東部にジャド山地がある。この両地域にわたる北東部一帯とアイール山地の西部地域がサハラ砂漠となっており、国土の 3 分の 2 を占め、起伏の多い荒涼とした砂丘地帯が続いている。国土の東部地域はステップ地帯であり、遊牧民が散在している。また、南部地域はサバンナ地帯で、ニジェールの穀倉地帯を形成している。国土の南西部を流れるニジェール河は、アフリカで 3 番目に長い河川である（数値は東京書籍資料、1995）。

（参考文献）

『世界各国要覧 8 訂版』 1995 東京書籍
The Europa World Yearbook 1997 Europa Publications
World Development Report 1997 The World Bank

2. 気候

気候は地域的に 2 つに大別できる。北部地域は乾燥したサハラ型で年間雨量も少なく、年間気温は摂氏 36 度から 18 度の間（東京書籍資料、1995）、年平均気温は 29 度（Europa Publications 資料、1995）である。一方、南部地域は雨量が多く湿度も高い。南部地域では 7 月から 9 月が雨季となり、10 月から 6 月までが乾季である。

（参考文献）

『アフリカ年鑑』 1994 アフリカ協会『世界各国要覧 8 訂版』 1995 東京書籍
The Europa World Yearbook 1997 Europa Publications

3. 人口

1996 年央の総人口は推計 947 万人（IMF、1999）である。人口の多くは農耕地域である南部に集中しており、北部および東北部は人口密度が低い。主な都市の人口は、88 年で首都ニアメが 55 万人、87 年でジンデルが 8.2 万人、マラディが 6.5 万人である（数値は EIU 資料、1996）。

（参考文献）

Country Profile:Niger,Burkina Faso 1996-97 1996 EIU
International Financial Statistics January 1999 IMF

4. 略史

表-2：ニジェール略年表

年月	出来事
7世紀～12世紀頃	ソングイ王国（現在のマリ）によるニジェール西部の支配。 ボルヌー王国によるニジェール東部地方の支配。
17世紀～19世紀頃	トアレグ族の勃興。
1891年	セネガルを起点に出発したフランス遠征隊がマリ及びニジェールを横断しチャド湖に達する。
1897年	フランスはニジェール河沿岸のドーリ及びサイに基地を建設。
1902年	フランスの行政下に入る。
1911年	フランス領西アフリカ総督の統治下に置かれる。
1922年	フランス植民地となる。
1926年	ザンデールが最初の首都となる。
1946年	フランスの海外領土となる。
1958年	フランス共同体内の共和国となる。
1960年 8月3日	独立。
10月	ハマニ・ディオリ大統領選出、憲法制定。
1965年 9月	ハマニ・ディオリ大統領再選。
1970年 10月	ハマニ・ディオリ大統領三選。
1974年 4月	セイニ・クンチュ中佐による軍事クーデター、軍事政権成立。
7月	クーデター未遂事件発生。
1976年 3月	クーデター未遂事件発生。
1978年 2月	クーデター未遂事件発生。
1983年 1月	首相ポスト創設。
10月	クーデター未遂事件発生。
1987年 11月	クンチュ議長の死去にともない、アリ・セイブ政権成立。
1989年 9月	国民投票により新憲法が承認された。
12月	大統領及び国民議会選挙（新憲法下で初の大統領としてアリ・セイブ選出される。民政移管）。
1990年 11月	複数政党制導入。
1991年 7月	国民会議が初めて開かれた。
8月	国民会議、憲法を停止。
10月	アマド・シェファー氏を1993年1月までの暫定首相に任命。
1992年 2月	反乱兵士クーデター。
3月	暫定内閣解散、暫定新内閣成立。
5月	トアレグ族ゲリラとの間で停戦協定調印。
10月	学生暴動

次ページへ続く。

年月	出来事
1992年 12月	新憲法国民投票、圧倒的多数支持。
1993年 1月	学生暴動。
2月	総選挙及び第1回大統領選挙。
3月	第2回大統領選挙。
4月	マハマヌ・ウスマヌ大統領就任。イスフ内閣発足。
1994年 9月	イスフ首相辞任。
10月	スレイ内閣発足。
1995年 1月	総選挙。
2月	アマド・ハマ内閣発足。
1996年 7月	イブラヒム・マイナサラ大統領に当選。
8月	グリカ・アジ内閣発足。
11月	総選挙
1997年 6月	内閣一部改造。

出所 【ニジェール共和国概要】 1991 外務省
 【世界年鑑】 1993、1994、1998 共同通信社
 【最新世界現勢】 1993 平凡社
 【月刊アフリカ】 1月号 1995 アフリカ協会
 The Europa World Yearbook 1995 Europa Publications
 Country Report:Togo,Niger,Benin,Burkina Faso 1st,2nd quarter 1995 EIU

5. 民族

ハウサ族は全人口の半数以上を占めるこの国で最も有力な種族であり、ニジェールの中央部から南部にかけて多く住む。この種族に属する部族は、だいたい7つぐらいあるが、多かれ少なかれ黒人とベルベル、プール、あるいはアラブ族との混血である。また、ニジェールの商人にはこの種族の出身者が多い。

ソンガイおよびジェルマ族はその数約100万人と推定され、ニジェールの西部（ニジェール湖畔）に多く住む。彼等の先祖は、往時2回にわたって繁栄を誇ったソンガイ王国であるといわれる。ハウサ族と同様定住農耕民である。

プール族は西アフリカでは非常に広範な地域にわたって住んでいる種族で、ニジェールには約60万人が住んでいると見られる。定着して農業に従事している者もいるが、彼等の多くは南部サヘル地方に住む遊牧民で、牛が財産の象徴であり、牛を絶対殺さないという。

トアレグ族はその数約50万人、北部地方に多く住み、往時は勇猛な戦士であったといわれる。ドゥーブ族はチャド国境沿い、および北部に住む遊牧民である。カヌーリ族は南東部からチャド湖にかけて多く住む農耕民であり、その数は約33万人と推定される（以上数値は外務省資料、1991）。

上記種族のうち、トアレグ、プール、ドゥーブはいずれも北方系種族（白人系）で、その昔遊牧あるいは隊商をなして移動していたが、近年は定住し農業に従事している人も

多い。

1988年での主要部族の全人口に占める割合は、ハウサ族が53.6%、ソンガイ・ジェルマ族が21%、プール族が10.4%、トアレグ族が9.2%となっている(数値はEIU資料、1995)。

(参考文献)

『ニジェール共和国概要』 1991 外務省

Country Profile:Niger,Burkina Faso 1995-96 1995 EIU

6. 言語

各部族はそれぞれ固有の言語を有しており、部族間の共通語として公用語のフランス語が使用されている。行政、商業、学問などいずれもフランス語で行われており、英語を理解する人は極めて少ない。ただし、フランス語は町中の一部の住民の間でしか使われていない。

各部族の主な言語としては、ハウサ族はハウサ語を、ソンガイ族、ジェルマ族はジェルマ語を、プール族はプール語を、トアレグ族はタマシェク語(チフィルナ文字を持つ)を、またカヌーリ族はカヌーリ語(フルフルデ語)をそれぞれ用いている。このうちハウサ語はハウサ商人を媒介としてニジェール国内に普及しつつあり、更にナイジェリアの北部まで広く行きわたっている。また、アラビア語は各地のコーラン学校によってある程度普及している。

1991年には、国民議会において10の国語が定められた(数値はEuropa Publications資料、1998)。

(参考文献)

『ニジェール共和国概要』 1991 外務省

The Europa World Yearbook 1998 Europa Publications

7. 宗教

国民の95%程度(Europa Publications資料、1998)がイスラム教徒であると見られており、その他は伝統的な宗教、キリスト教の信奉者である。

(参考文献)

The Europa World Yearbook 1998 Europa Publications

8. 文化

各部族がそれぞれ独自の社会習慣、文化を有している。定住農耕部族のハウサ族と北部遊牧部族のトアレグ族などではその慣習も大きく異なっている。これは、それぞれ土着の文化を有しているからである。

また、イスラム教の影響力が強いので、酒類は飲まず豚肉を食さない。ラマダン期間中の断食なども行われている。

(参考文献)

【ニジェール—その国土と市場—】 1984 科学新聞社出版局

9. マス・メディア

(1) 新聞

ニジェールの主な新聞には、Office National d'Édition et de Presseにより発行されているフランス語の日刊紙の【Le Sahel】(5,000部)および週刊紙の【Le Sahel Dimanche】(3,000部)や、隔週紙の【Journal Officiel de la République du Niger】(800部)、月刊紙の【Horizon 2001】、週刊紙の【Le Republicain】がある。その他、ハウサ語による月刊紙【Kakaki】や週刊紙【Haske】、季刊誌【Haske Magazine】(3,000部)等がある(数値は Europa Publications 資料、1998)。

(参考文献)

Country Profile:Niger,Burkina Faso 1995-96 1995 EIU

The Europa World Yearbook 1998 Europa Publications

(2) 放送

ニジェールにはテレビ1系統、ラジオ1系統の国営放送がある。テレビ放送は1979年に開始され、国営の「Tele-Sahel」が実施している。また、ラジオ放送は国営の「LaVoix du Sahel」がフランス語、アラビア語および各部族語で実施しており、同機関によって国際放送も行われている(数値は NHK 出版資料、1994)。

1995年現在の受信機台数は、ラジオが62万台、テレビが10万5,000台である(数値は Europa Publications 資料、1998)。

(参考文献)

【データブック 世界の放送】 1994 NHK 出版

The Europa World Yearbook 1995 Europa Publications

表-3 : 経済指標 [ニジェール]

主要経済指標の推移		(1995)	(1996)	(1997)
GDP (十億CFAF)	(注1)	823.7	860.3	922.1
一人当たりGNP (ドル)	(注2)	220	N.A.	200
実質GDP成長率 (%)	(注1)	1.7	3.5	3.0
消費者物価上昇率 (%)	(注1)	10.6	5.3	2.9
失業率 (%)	(注4)	記載なし		
貿易収支 (百万ドル)		-18	-13	N.A.
輸出額(fob)		288	298* ¹	N.A.
輸入額(fob)	(注1)	306	331* ¹	N.A.
主要輸出入相手国	(注1)	輸出 (1996年)* ² ギリシャ (21.2%) 輸入 (1996年)* ² フランス (17.1%)		
経常収支 (百万ドル)	(注3)	-151.7	N.A.	N.A.
対外債務残高 (百万ドル)	(注5)	1,601	1,557	N.A.
債務返済比率 (%)	(注1)	16.7	17.3	N.A.
外貨準備高 (百万ドル)	(注1)	94.7	78.5	53.3
通貨 (1998年10月23日) (注1)	通貨単位: CFAフラン (CFAF) 1ドル = 548.4 CFAフラン (西アフリカ通貨同盟に加盟。1994年1月12日50%切り下げ)			
会計年度	1月1日~12月31日			

(注) *¹: EIU 推計値

*²: 貿易相手国の資料によるため、大幅な誤差があり得る。

出所 (注1) Country Report:Niger,Burkina Faso 4th quarter 1998 EIU

(注2) World Development Report 1997-1998 The World Bank

(注3) International Financial Statistics January 1999 IMF

(注4) Year Book of Labour Statistics 1998 1998

II 生活事情

1. 食生活

1-1 食料

(1) 一般事情

雨期（7～9月）には穀物（米、ミレット、ソルガム、トウモロコシなど）、乾期には野菜という生産サイクルである。

穀物生産は雨量に左右されるため、ニジェール唯一の水源であるニジェール川の有効利用に向けて、種々の灌漑プロジェクトが行われている。また、乾期の農業効率を上げるため、地下水開発、砂漠化防止が政策の優先課題となっている。食糧の自給自足という目標のため各種の施策が執られているが、現在のところは外国からの援助に依存している状態である。

(2) 主な食料の出回り状況

食料の出回り状況は年間を通じてほぼ良好であり、市場から商品がなくなることはない。スーパーマーケットはニアメ市内に数軒あり、必要最小限の食品は入手できる。ただし、ほとんどが輸入品であるため価格は高い。中国食品も若干量手に入る。

日本食品の入手はまったく不可能である。

露天市場では野菜、果物、肉などを安く購入できるが、衛生状態に不安があるため邦人の利用は一般的ではない。

米……ニジェール米は市場で常に購入できる。ただし独特のにおいがあるため邦人は利用していない。スーパーマーケットではアメリカ米およびタイ米が購入できる。最近では日本米も入手可能である。

パン……当地産のいわゆるフランスパンが購入できる。

肉類……牛肉、羊肉、鳥肉、豚肉はスーパーマーケットで購入できる。露天市場でも豚肉を除き購入できるが、衛生上勧められない。

野菜……露天市場で購入できる。ただしA型肝炎を予防するため薬品による消毒が必要である。スーパーマーケットでは輸入野菜を購入することができる。

果物……種類は少ない。マンゴー、バナナ、グレープフルーツ、オレンジなどが露天市場にある。リンゴ、ブドウなどの輸入品はスーパーマーケットで購入できる。

魚類……アビジャンから空輸されたものを購入することができる。スーパーマーケットにあるものは、冷解凍を繰り返して鮮度が落ちていることが多い。

ニジェール川で捕れた魚は市場で生のまま、または薫製にして売られている。ただし、外国人の利用は一般的ではない。

乳製品……スーパーマーケットでのみ扱っている。

調味料……香料は市場で購入できる。しょうゆは時折スーパーマーケットに出回るが、ヴェトナム風や中国風のもので、和食にはあまり合わない。味の素は入手可能である。味噌はない。

食用油……ピーナツ油、オリーブ油、大豆油、菜種油などが購入できる。

酒類……すべて輸入品で種類も豊富である。ビールについては国産品もある。

飲料水……ニアメ市内の水道水は衛生上問題ないとされているが、十分に煮沸す

べきである。ミネラルウォーターはスーパーマーケットで購入できる。

(3) 食料の入手

フランス製品などはスーパーマーケットにある。ニアメ市内の主な店は Score、Kawar、Mini-Market、HADDAD などである。

露天市場には Petit Marche、Grand Marche、Boukoki、Wadata などがある。通常、値段交渉をしなければならない。

1-2 食器、調理器具など

(1) 食器、調理器具などの入手

炊飯器を除き、電化製品は一通り購入できる。電圧は 220 ボルトである。コンセントの形状が日本とは異なるため、多少割高でもすべて当地で購入した方がよい。

上質の包丁、すりこぎ、まな板、すきやき鍋、中華鍋など特殊な物を除けばひと通りの調理器具は購入できる。ただし、選択の余地はない。

食器類は Peyrissac で購入できるが、和食器（箸、お椀、湯呑みなど）は全くない。

(2) 日本から持参した方がよい食器、調理器具など

和食、中華料理などに使う物は必要であれば持参すること。また、ふきん、亀の子ダワシなども持参すると便利である。炊飯器はトランスと併せて持参するか、海外仕様（220 ボルト用）製品を持参するとよい。

1-3 外食

(1) 飲食店

和食の店はない。邦人がよく利用するレストランは次のとおりである。大人数でなければ特に予約の必要はない。

<中華料理>

Dragon D'Or……………電話：734123

Chez Chin ……………電話：722528、所在地：B.P.10847

<フランス料理>

La Cascade……………電話：732832、所在地：B.P.10624

Dounia……………電話：725086

Tabakady……………電話：735818、所在地：B.P.11129

Diamangou ……………電話：735143

La Reserve……………電話：732105

<レバノン料理>

L'Oriental……………電話：722015、所在地：B.P.164

<ロシア料理>

La Flotille……………電話：723254、所在地：B.P.575

上記の他、ヴェトナム料理店の Le Lotus Bleu がある。同店の一部がスナックの Midas（下記参照）と合併しており、そこでもヴェトナム料理が楽しめる。

また、ホテル内にもレストランがある。

(2) その他の飲食店

Midas（スナック TEL 733131、B.P.10872）、La Pizzeria（ピザ TEL 722486）がある。

2. 衣料

2-1 衣料

(1) 一般事情

酷暑地帯であり、年間を通じて夏服で過ごせる。ただし、11～2月の朝夕は日本の高原のような涼しさとなるため、綿セーターや上着なども必要である。

砂漠旅行を計画している場合は、夜の冷え込み（0～マイナス5℃）に備えてセーターや防寒用のジャケットなども必要となる。

(2) 日本から持参した方がよい衣料

男性……下着、綿靴下、パジャマ、ワイシャツ、ネクタイ、靴、帽子など。

女性……下着、寝間着、カーディガン、外出着、靴、靴下、帽子など。

子供……ひととおりの衣類を、成長を考慮して揃えるのが望ましい。

(3) 任国で調達した方がよい衣料

当地の正装であるグランド・ブーブーはお土産などによい。

女性用ふだん着、男性用ショートパンツ、開襟シャツ、スポーツシャツなどの古着が多く出回っている。また、ブランド品に似せたものが2,000 CFA フラン（500 円）程度で調達できるが、一般には入手しにくい。

(4) その他の留意点

配属ポストにもよるが、ワイシャツは正装時および重要会議の際に着用する程度で、通常の業務時には開襟シャツやスポーツシャツを着用することが多い。ワイシャツよりカジュアルなものを多めに持参するとよい。

およその目安として、男性が1年間に必要な衣類はワイシャツ2枚、開襟シャツ5枚、スポーツシャツ5枚、ショートパンツ3本、長ズボン3本程度である。

当地では綿と化繊の違い、良質綿と粗悪綿の違いは歴然と肌で感じられる。特に子供には吸湿性のよい綿製品を持参するのがよい。

2-2 礼装

(1) パーティー

政府、大使館主催のパーティーでは、男性はスーツ着用、女性はフォーマルなワンピース着用が一般的である。このほかのパーティーでは、男性はワイシャツ、女性はワンピースでほぼ通用する。

(2) 式典

該当情報なし。

(3) 冠婚葬祭

該当情報なし。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗濯

ドライクリーニング店はあるが、絹製品（着物など）には対応できない。

アイロン、電気洗濯機（220 ボルト）は当地で購入できる。アイロンは衛生上必需品である。

(2) 仕立て、修繕

ミシンのある仕立て店、修繕店は多数ある。腕のよい店を選定するとよい。

(3) 保管

乾燥しているため、かびの心配はない。虫もつきにくいですが、ウール製品には樟脳などをに入れておく方がよい。

3. 住宅

3-1 住宅事情

(1) 一般事情

多くの独立家屋があり、都心部ビルディング内にはアパートもある。また、公営住宅ビルがあり、設備管理面では多少劣るものの家賃は安い。

家賃は、独立家屋(3 LK 庭付き)は20万~50万 CFA フラン、アパートは15万 CFA フランからで、家具付きであれば30万 CFA フラン程度である。公営住宅は1 LK~2 LK で7万~15万 CFA フランが一般的である。

独立家屋ではガードマンを雇う必要がある。また、家具付きの物件は少ない。

アパートには1棟ごとに警備員がおり、家具付きが多い。クーラー、電気温水機はすべての物件についており、トイレは水洗である。

3-2 ホテル事情

Hotel Gaweye はフランスのソフィテル系列のホテルであり、ほかに比べてかなりデラックスな近代ホテルである。1週間を超える滞在の場合は、費用の点から Hotel Terminus が最も多く利用されている。

邦人がよく利用するホテルは次のとおりである。(単位: CFA フラン)

Hotel Gaweye

電話 23400
住所 B.P.11008 Niamey
料金 60,000(川沿い)、56,500
備考 4つ星、250室

Grand Hotel

電話 732641
住所 B.P.471 Niamey
料金 24,000
備考 4つ星、73室

Hotel Tenere

電話 733920
住所 B.P.10734 Niamey
料金 20,475
備考 4つ星、55室

Hotel Sahel

電話 732431
住所 B.P.627 Niamey
料金 13,500
備考 3つ星、24室

Hotel Terminus

電話 732252
住所 B.P.882 Niamey
料金 24,000 (TV付)、22,500
備考 3つ星、43室

Hotel Les Roniers

電話 723138
住所 B.P.795 Niamey
料金 19,000、22,500
備考 3つ星、26 バンガロー

3-3 住宅の探し方

予算にあわせ、不動産業者がいくつかの物件を見せてくれる。納得できる物件に出会えるまで何軒も見るとよい。信頼のおける不動産業者は次のとおりである。選定、契約、家賃の支払いから家屋修理まで諸々の窓口となる。

Agence Immobiliere Hassane IDE

住所 B.P.10254 Niamey
電話 733776

Agence Immobiliere Rabe MAMANE

住所 B.P.11262 Niamey
電話 732279

3-4 住宅の選定上の留意点

住居の選定時が涼しい季節（11～2月）の場合、クーラーがなくても過ごせそうだと思います。しかし3～10月には酷暑となり、クーラーなしでは過ごせない。また、すべての部屋に設置されている必要がある。当初から、クーラーおよび温水機が使用可能（故障していない）であることを入居条件として申し入れた方がよい。

雨季は激しい雨で水が溜まりやすいため、低地は避けること。また、天井に雨漏り跡があるか否かも点検する必要がある。

契約後の補修は何かと時間がかかり、家主も嫌がることが多い。契約前に点検を済ませ、依頼するのがよい。

3-5 住宅の契約

借家契約は通常1～2年単位で、不動産業者の仲介のもと家主と締結する。その際、不動産業者へ礼金として家賃1ヶ月分の30%を支払う。家主の納税の関係上、家賃は3ヶ月ごとの前払いが多いが、交渉次第で毎月払いも可能である。

家具付き住居の場合は、家具のリストを作成してチェックする必要がある。

3-6 電気、ガス、水道などの手続と管理

電気、水道の契約は、前居住者もしくは家主から名義変更をすることになる。手続きには身分証明書と配属機関長の保証書が必要である。

電話の新規設置は、近くに電話線がある場合でも申し込み後1～3ヶ月を要する。住居選定の際は、近くに電話線があるか否かもチェックするとよい。

3-7 その他

私書箱の開設は空き次第である。配達制度はないので、開設までは所属機関などの気付とする必要がある。

4. 医療

以下の記述は、執筆者が現地滞在経験に基づきまとめた一般参考情報で、必ずしも医療専門家の校閲を受けたものではありません。したがって、詳細（特に緊急時の対応や予防薬の服用方法など）については、事前に医療関係者から専門的アドバイスを受けるようにしてください。

4-1 赴任前の準備

(1) 予防接種

入国には黄熱病の予防接種が必要である。破傷風、狂犬病の予防接種も済ませておくといよい。また、A・B型肝炎抗体の有無を検査のうえ、陰性の場合には予防接種を受けるとよい。

流行性脳髄膜炎がみられるため、赴任後当地にて予防接種を受ける必要がある。

幼児に関しては、BCG、ポリオ、3種混合、はしかの予防接種が必要である。日本で接種が完了していない場合は、当地での接種プログラムをたてておく必要がある。おたふく風邪の予防接種も受けておくといよい。幼児の場合、A型肝炎に罹患しても比較的軽い症状で済む。ガンマグロブリンの接種は保護者の判断による。

(2) その他の準備

赴任直後は下痢を訴える人が多い。正露丸などの下痢止め、整腸剤は不可欠である。

消毒石けん、消毒薬、虫よけスプレー、蚊帳、蚊取り線香、電気蚊取りマット（ベープなど）は当地にて購入可能である。抗マラリア剤ニバキンも当地にて購入できるので、服用を勧める。

眼鏡、コンタクトレンズなどは予備を含めて準備する必要がある。歯科治療は当地でも可能ではあるが、日本で済ませておいた方がよい。

4-2 医療事情

(1) 医療機関

ニアメ市内の各地区に無料診療所があり、ここから必要に応じてニアメ国立中央病院に送られるのが一般的である。一方、邦人を含む外国人は、フランス人経営のクリニック・ド・ガンカレーを利用している。なお、フランス移送の際の航空券購入には各航空会社の担当医（下記）の了解を得る必要がある。

エア・アフリカ（RK）……クリニック・カバ担当医師

総合病院については次のとおりである。

ニアメ国立中央病院

電話：722521～3

診療科目：全科

備考：専門医にかかる場合は要予約。入院可。1日当たりの入院費は9,375～3万7,500 CFAフラン。

ニアメ国立大学医学部付属病院

電話：734726～7

診療科目：全科

備考：要予約。入院可。1日当たりの入院費は2万5,000 CFAフラン。

クリニック・ド・ガンカレー

電 話：732033

診療科目：全科

備 考：予約は歯科および専門医にかかる場合のみ必要。邦人の多くが利用している。会員か否かにより料金が異なる。入会金は年間3万5,000 CFA フランで、毎年10月に更新。医師の多くはフランス軍医であり、2年ごとに転勤する例が多い。入院可。1日当たりの費用は6万 CFA フラン。

クリニック・カバ

電 話：732108

診療科目：全科

備 考：要予約。Dr. Klaingar がいる。入院不可。

クリニック・プロサンテ

電 話：722650

診療科目：全科

備 考：専門医は要予約。

(2) 緊急時の対応と措置

ニアメ国立中央病院、クリニック・ド・ガンカレーには救急車サービスがある。

ニアメ国立中央病院……………電話：722521

クリニック・ド・ガンカレー……………電話：732033

当国における日本の公的機関は JICA/JOCV 駐在員事務所だけである。緊急の際は、在コートジボアール日本大使館または JICA 本部（東京）と連絡をとることになる。

国内旅行中は、各県の中央病院にて応急処置を行った後、ニアメへ移送となる。地域にもよるが、ニアメからのセスナ機のチャーターが可能である。

なお、フランスのパリ・アメリカン・ホスピタル（下記）には邦人医師2人がアドバイザーとして勤務している。日本語のわかる看護婦も常勤しており、アフリカ方面からの邦人患者も多い。急を要する診察、治療、または休暇中の諸検査に便利である。

American Hospital of Paris

電 話：(1) 46-41-25-25 （内線 2017）

F A X：(1) 46-24-49-38

4-3 医薬品など

(1) 携行することが望ましい医薬品

酷暑地での長期間の保管を考慮しなければならないが、家庭用常備薬や持病の薬は持参すること。

幼児に関しては、日本の主治医よりかぜ薬、解熱剤などを多めに処方してもらい、持参するとよい。当地では、医師発行の処方せんにより薬局で購入することになるが、医師にはフランス語以外はほとんど通じず、服用方法も緊急の場合には理解しにくい。

品質を考慮して、避妊具などは持参した方がよい。

(2) 任国で調達できる医薬品

医薬部外品、消毒薬、うがい薬、アスピリン、抗マラリア剤などは処方せんがなくても購入可能である。フランス製の薬品については多種にわたり入手可能であり、在

庫のない場合は薬局を通じてとり寄せることもできる。注文から入手まで約1ヶ月を要する。

(3) 任国で調達できる衛生用品

生理用品は、スーパーマーケットや薬局にフランス製品が多数揃っている。包帯、ガーゼ、絆創膏なども薬局で購入できる。避妊具も薬局で入手可能であるが、品質を考慮して当地で調達する邦人は少ない。

(4) 医薬品を使用する場合の留意点

一般に、フランス製の医薬品は日本のものより薬効が強い。服用量は医師に相談し、指示に従う必要がある。

有効期限切れの薬品はまれであるが、購入時には念のためチェックした方がよい(外箱に記載)。

4-4 妊娠、出産、育児

(1) 妊娠した場合の対応

エコーグラフなどの設備があり、分娩は可能である。流産の対応も可能である。

しかし、未熟児などの対応は困難である。ニアメ国立中央病院と大学病院には保育器が3台あるが、故障していることが多い。

(2) 出産後の対応

母子検診サービスは外国人に対しては実施されていない。医師と相談のうえスケジュールを組み、個人的に行う必要がある。同様に予防接種も医師と相談のうえ予定表を作り、クリニックなどで接種することになる。

(3) 育児

フランス製品など一通りの育児用品はあるが、種類は限定される。粉ミルク、紙おむつは比較的容易に入手できるが、在庫のない事がある。ミネラルウォーター、離乳食(瓶詰めなど)は常時入手可能である。サランは入手困難である。

家庭内の使用人には、乳幼児との接触について十分に指導する必要がある。ただし、邦人とは基本的な衛生観念が異なるため、完全に理解してもらうことは難しい。

4-5 手術

(1) 任国で可能な手術

設備面、衛生面を鑑みて、一刻を争う事態でなければフランスまたは日本で手術を受ける方がよい。

(2) 手術設備の状況

ニアメ国立中央病院には内視鏡、大学病院には脳波測定装置などがあるが、全般的に設備内容は充分とはいえない。国内にCTスキャンはない。

公立病院には入院加療設備があるものの、個室は限られている。

クリニック・ド・ガンカレーでは個室と2人部屋を合計18室備えており、常時空き室がある。寝具類も清潔である。付き添いは原則として必要なく、食事も出される。

(3) その他の留意点

輸血によるマラリア、肝炎の感染例は多い。輸血は、その緊急性と重要性を十分考慮したうえで行うべきである。

4-6 任国でよくかかる傷病

(1) 一般の疾病

赴任当初に下痢を患う人が多い。11～2月の夜は涼しくなるため風邪が流行る。

肺炎、ポリオ、腸チフス、流行性鼻炎などがある。ポリオを除き、成人も注意を要する。

(2) 風土病・伝染病

脳脊髄膜炎、肝炎、マラリア、アメーバ赤痢、破傷風、ジフテリア、百日ぜきなどが国民の罹患する主な疾病である。エイズの発症は1996年の発表によると3,002件となっている。また、ハンセン病患者、ポリオ患者も多い。

(3) 有害動物、病害虫

防蚊対策は、ほぼ年間を通じて（3～6月は少ない）必要である。

サソリは砂漠とその周辺に生息している。ニアメ市内にはほとんどいない。雨季、野原などではまれに毒ヘビが見られる。流れのない水中には住血吸虫が棲息している可能性がある。

4-7 保健衛生

(1) 飲料水

ニアメにおいては水道水も利用できるが、煮沸後の飲用が望ましい。

ニアメ市内ではフランスやコートジボアール製のミネラルウォーターが容易に購入できる。他の各県庁所在地にてもミネラルウォーターは購入可能である。

(2) 濾過器の入手

ニアメ市内で簡易なものは購入可能である。大型で病原菌をも濾過するものは、フランスなどからとり寄せることになる。

(3) その他の留意点

帰宅後の手洗いを励行すること。日中の日差しが強いため、外出時は帽子を着用するとよい。

家庭内の使用人には、出勤時にシャワーを使わせ、清潔な衣服と取り替えさせるなどの注意が必要と思われる。

5. 教育

5-1 教育事情

(1) 一般事情

教育制度はフランスに倣っており、小学校、中学校、高校と5・4・3年制を敷いている。また、フランスの教科書を用いている科目が多い。

日本人学校はなく、邦人子弟はアメリカンスクールもしくはリセ・ラ・フォンテーヌに通うことになる。公立、私立校ともに学期は10月から始まり6月に終了する。

(2) 日本人学校

なし。

(3) 現地校、外国人学校

アメリカンスクール

所在地：c/o Ambassade des USA B.P.1201

電話：723942

リセ・ラ・フォンテーヌ

所在地：B.P.529 Niamey

電話：722163

両校ともに幼稚園より高校までである。

(4) 幼稚園

該当情報なし。

5-2 入学手続および授業料

(1) 日本人学校

該当情報なし。

(2) 現地校、外国人学校

アメリカンスクールへの入学手続きは、所定の入学申込書、予防接種証明書に写真を添え、入学金および年間授業料を支払う。途中編入の場合は、該当学年までの修了証明書も必要となる。入学金は1,750\$、授業料（1年間）は、高校10,800\$、中学校は9,800\$、小学校は9,000ドルである。通学にはスクールバス（年間1,750\$）がある。ニジェールの祝祭日およびアメリカの祝祭日は休校となる。

リセ・ラ・フォンテーヌへの入学手続きは、所定の入学申込書、予防接種証明書に写真を添え、保険料などと1学期分の授業料を支払う。途中編入の場合は、該当学年までの修了証明書も必要となる。

授業料（1学期あたり）は、中学、高校は14万3,300 CFAフラン、小学校以下は9万5,000 CFAフランである。他に保険料などで年間8万 CFAフランを要する。

通学は、幼稚園、小学校低学年は親の送り迎えを要する。スクールバスはない。学期は10～6月までで、3ヶ月ごとに3学期に分かれる。休校日はニジェールの祝祭日に準ずる。

(3) 幼稚園

該当情報なし。

5-3 教育関係施設

(1) 図書館

最も書籍の充実している図書館はフランコ・ニジェール文化センター内のものであり、16ミリのライブラリー資料も備えている。館内での閲覧は誰でも可能であるが、貸し出しは会員のみが対象である。ウマル・ガンダ文化センター内にも図書館があるが、書籍数は多くない。ニアメで一般の人が利用できる図書館はこの2館のみである。

フランコ・ニジェール文化センター

所在地：B.P.11413 Niamey

電話：734834

ウマル・ガンダ文化センター

電話：733088

(2) スポーツ施設

国営グラウンド、施設などの一般利用は困難である。各教育機関はグラウンド、プールなどを保有しており、これらを利用することになる。また、各ホテルの保有するプール、テニスコートがある（「10-10 スポーツ」の項参照）。

5-4 家庭学習

(1) 家庭教師

語学、小・中学生各教科の家庭教師を依頼することは可能である。ただし、よい人材を見つけることは容易ではない。フランコ・ニジェール文化センターの掲示板に募集広告を出すなどの方法があるが、一旦断った候補者に何回も訪ねられることもある。結局、人づてに探すのが無難なようである。

ピアノなどの先生を見つけるのは困難である。

(2) 通信教育

日本から教材をとり寄せて行う通信教育は可能である。海外子女教育振興財団が行っている海外向けの通信教育では、小学校、中学校の国語、数学、理科、社会などが受けられる。詳細は下記に問い合わせるとよい。

インターネット：<http://www.joes.or.jp>

東京本部

住所：〒105-0000 東京都港区虎ノ門 1-21-17 虎ノ門NNビル 6階

電話：03-3580-2521

関西分室

住所：〒530-0001 大阪市北区梅田 1-3-1-200 大阪駅前第一ビル 2階

電話：06-344-4318

ニジェール国内においてはアメリカンスクールの大学受験者を対象とした通信教育が存在するのみである。

(3) 携行した方がよい家庭用学習教材

現地校に入学する場合、辞書と日本語教科書を除けば当地の方が入手しやすい。問題集、参考書の種類、程度、量などは親の判断による。教科書は大使館経由で送付してもらえる。

6. 家庭の使用人

6-1 一般事情

ウラン景気の低迷により、各分野で労働者は余剰ぎみである。政府は各機関にニジュール人の雇用を呼びかけると共に、外国人労働者の規制を行っている。このような現状のもと、労働監督局は職業安定所を通じて雇用を呼びかけており、ローカルスタッフや知人からも、親戚などを雇用して欲しいという申し入れは多い。

ただし、最初から満足できる使用人に出会えるのは幸運な例である。多くの場合、地道に指導する必要がある。

業種は運転手、コック、ボーイ、子守り、ガードマンなどに分けられるが、仕事はインドのように細分化されていない。例えばコック、ボーイ、子守りの兼業も可能である。

年間 30 日の有給休暇を与えるほか、社会保険など国で定められた待遇に準ずることが望ましい。また、祭りの際に特別手当を支給することがある。

一般に彼らは信用でき、家の物が無くなることはほとんどない。ただし、保管は厳重にする必要がある。

近隣国からの出稼ぎ者が多いため、使用人も時に警察官から検問を受けることがある。雇用証明書を作成し、携帯させるとよい。

6-2 運転手

(1) 雇用

職業安定所を通して、または知人の紹介などによる。運転技能や人柄については知人の紹介の方が安心できる。

当地ではフランス語ができなくても運転免許を取得できる。まずフランス語のできることを確認し、履歴書などを提出させるとよい。

後日問題を残さないためにも契約書を作成した方がよい。文中には試用期間、警告 3 回で解雇する旨などを明記しておくことよい。

一般に、勤務時間は 8:00~18:30 で、昼に 3 時間の休憩を与える。給与は 1 ヶ月 4 万~6 万 CFA フランが相場である。

(2) 日常管理

当地のドライバーはスピードを出しがちであるため、安全運転の指導が大切である。長距離運転の場合は約 2 時間ごとに休憩をとらせること。

車両が汚れた場合はもちろん、日頃から定期的に清掃を行うことと、ラジエーターの水、モーターオイルの確認を習慣づけてもらうことよい。

(3) 教育指導

生活道路で砂埃をたてながら走ったり（スピード運転）、自転車のそばをスレスレに走る傾向があるため、歩行者や周囲に注意を払うよう指導することが必要である。また、スピードを緩めずにカーブを切る傾向があり、転倒事故につながることもあるので、必要に応じて注意を与えるとよい。

上記のような運転マナーの指導に加え、靴の着用（スリッパ愛用の人が多い）を義務づけることも大切である。

(4) その他の留意点

万が一、事故にあった場合の対処法もあらかじめ指導しておくといよい。

6-3 家政婦／夫

(1) 仕事の種類と人数

有能な人であれば、1人で料理、給仕、皿洗い、洗濯、掃除、子守りなどを兼ねる場合もある。ただし、手のかかる乳幼児がいる家庭には、子守り専門の人が必要である。また、客を招くことが多い家庭ではコックの雇用も考えられる。

(2) 雇用

雇用は知人の紹介によることが多く、職業安定所や新聞広告による例は少ない。

後日解雇時などに問題を残さないために、必ず契約書を作成するのが好ましい。

休暇は土・日曜日または日曜日のみなど事前に決めておくこと。勤務時間は各家庭の都合に併せて決めることが可能である。また、来客などの際は22:00頃まで超過勤務を依頼することも可能である。一般的な給与は月2万5,000 CFAフラン程度であるが、料理の腕がよい場合は6万 CFAフラン程度となる。

ボーイの場合は口頭の契約でもよい。試用期間を決め、様子を見て昇給してもよい。住み込みの雇用も可能であるが、その場合は使用人部屋の有無など、当初の住居選定に注意を要する。

数軒をかけ持ちしている人であれば隔日勤務も可能である。専属の隔日雇用はむずかしい。

(3) 日常管理

一般に、衛生観念は邦人と全く異なると思えるべきである。室内で従事する使用人には、勤務前にシャワーを使わせ、石けんによる手洗い、皿洗い時の念入りなすすぎ、ふきん、手ふきの使い分けなどを日頃から指導し、習慣づける必要がある。その他の様々なマナーも日本とは異なるため、根気強い指導が必要である。

各人の1日および1週間の仕事をプログラム化しておくこと、仕事を進めやすく効率がよい。

6-4 庭師、ガードマンなどの雇用

(1) 雇用

特別な手入れが必要な場合を除き、庭の掃除、水撒き、芝刈りなどはガードマンの仕事の領域である。庭の改造などには臨時に庭師へ依頼することになる。

当国におけるガードマンはむしろ門番の色合いが濃く、給与、労働条件の点からも優遇はされておらず、日曜日も休みのないケースが多い。

雇用は知人からの紹介がほとんどである。また、空き家の時から家主に雇われて警備をしていた人を、そのまま引き継ぐ場合もある。家主が雇っていたガードマンは比較的信用のおける人物であることが多い。

勤務時間は昼間、または夜間の12時間である。夜の部のみ雇用する例が多い。24時間警備を必要とする場合は2人雇うことになる。給与は月3万～5万 CFAフランである。アメリカ人家庭では中近東でのテロ以来、月6万～8万 CFAフランほどで専門的なガードマンを雇用しているようである。

隣近所のガードマンが連帯して盗難防止をはかれるよう、笛を持たせるのもよい。

7. 交通事情

7-1 交通手段

(1) 一般事情

交通手段は車両によるものが主である。ほかにはニアメ～アガデス～アーリット間の空路が週3便、バック～ファリエ間のニジュール川フェリーボートがある。鉄道はない。

道路は1968年頃から本格的に整備が開始された。ニアメからナイジェリア国境沿いに東の町ディツファに至るルート、途中から北上するアーリットまでのルート（通称ウラン道路）、およびニアメから隣国マリ、ブルキナ・ファソ、ベナンに至るルートが主要幹線であり、ニアメ～マリ国境間の一部を除き、すべて舗装されている。

しかし幹線道路から各町村へ分かれる道路の多くは未舗装であり、雨季には決壊したり寸断される個所もある。

現在、特にジンデル～ディツファ間の道路破損がひどく修復も困難なため、ディツファ寄り50キロメートルのバイパス建設がカナダの援助で進められている。また、トランスサハラ道路（アルジェ～ラゴス間、4,650キロメートル）の一部としてアガデス～ジンデル間の舗装が予定されている。

公共交通機関として国営バス（SNTN）が主要都市間を運行している。出発曜日が決まっており便数は多くない。出発の18時間前までに予約が必要である。隣国のマリ、ブルキナ・ファソ、ベナンへの国際便も週1便ある。

ニジュール人にもっとも利用されているのは長距離タクシー（タクシー・ド・ブルース）である。SNTNの半額程度の料金で毎日運行している。ただし、ワゴン車（トヨタ・ハイエース、ニッサン・キャラバンなど）に定員の1.5～2倍を載せ、しかも乗客数が満たないと出発しないため、出発、到着の時刻は定まらない。したがって安全性、乗り心地、時間の正確さではSNTNに劣る。

ニアメ市内には乗り合いタクシーがあり、市民の足として多く利用されている。通常は1区間150CFAフランであるが、利用者の少ない方面へ行くには2～3人分の料金を支払わなければならない。

自家用車を除き、最も効率のよい移動手段はレンタカーの利用である。

(2) 自家用車を利用する場合

運輸業者以外の車両には車検制度はないため、各自の日々の車両点検が肝要である。交通法規はフランス式で右側通行である。ロータリーでは右からくる車両が優先となるので注意すること。

ヘッドライトには黄色が多く、夜間の見通しは悪い。特に郊外での夜間の運転は避けた方がよい。また、羊、牛などに注意すること。

通行車両の少ないこともあり、時速100キロメートル以上で運転する人が多いため十分な注意が必要である。また、対向車のはじいた石によりガラスが割れることもある。未舗装道路を乗用車で走行するのは避けた方がよい。

車両保険の有効期限を確認しておくこと。

(3) レンタカーなどを利用する場合

ニアメ市内にレンタカー会社があり、車両のみ、または運転手付きで利用できる。

ニジェール・カー (Hertz、Tel 732331)

料金 (燃料費・税別) :

- ・プジョー 504、トヨタ・カリーナ
基本料金 1日 20,250 CFA フラン
距離料金 185 CFA フラン/Km
- ・トヨタ・クラウン、ランドクルーザー
基本料金 1日 26,100 CFA フラン
距離料金 200 CFA フラン/Km

備考：運転手付きの場合は上記に1日当たり4,000 CFA フラン加算、冷房車は1日当たり2,700 CFA フラン加算。車両のみ借り入れる際は、免許取得後1年以上経過しており、かつ23歳以上であることが条件。ただし、市外へ出る場合は車両の返却率が低下するという理由により、車両のみのレンタルは行われていない。

(4) 道路地図

該当情報なし。

7-2 交通事故

(1) 対処方法

事故の際、ニアメ市内では各区にある警察へ連絡してポリス・レポートを作成する。市外路上では公衆電話などはないが、現場を通りがかったドライバーなどが連絡してくれ、30分～1時間程度でパトロール部隊が到着する。

負傷者がいる場合、ニアメ市内では救急車を持つニアメ国立中央病院かクリニック・ド・ガンカレーへ連絡する。市外では通りがかりの車両に依頼して最寄りの県立病院に行き、応急手当を受けることになる。

再衝突などの2次災害を避けるべく、現場を離れる際は遠方からも確認できるサインを出しておく必要がある。

一般に、事故を起こした当事者は自己の正当性を主張する。冷静な対応を心がけ、ポリス・レポートを作成した後は保険会社にゆだねるのがよい。

(2) 救急病院

ニアメ国立中央病院……………電話 722521～3

クリニック・ド・ガンカレー……………電話 732033

(3) 盗難

件数は多くないが、ウィンドウガラス、タイヤ、テールランプなど、はずせるものは盗まれることがある。バイクや自転車も同様である。ガラスを割って車内の物品を盗まれることはまれであるが、長時間駐車する際、貴重品を車中に放置するのは避けるべきである。

市内に駐車すると、自称ガードマンが向こうからやってくる。長時間駐車の場合は依頼するとよい。50～100 CFA フランで引き受けてくれる。特に、夜間の長時間の放置は避けた方がよい。

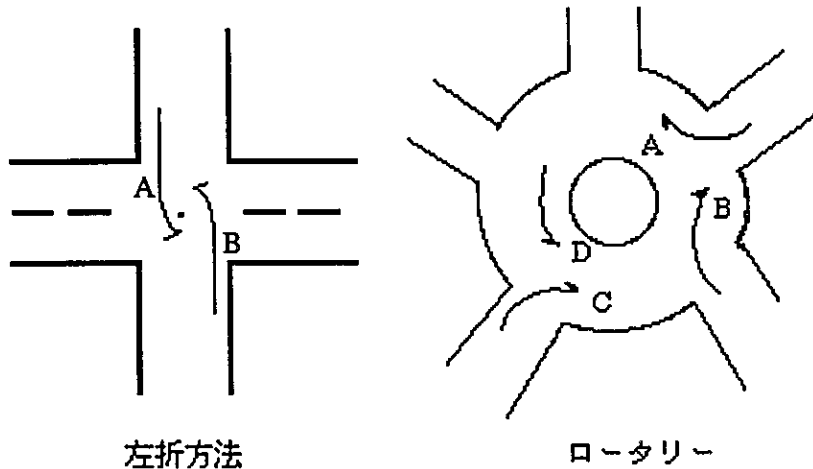
日本から盗難防止装置などを持参して取り付けておくのもよい。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

交通法規はフランスとほぼ同様で、車両は右側通行である。交差点での左折は、図1のように行われている。また市内にはロータリーが多くあり、右側優先の原則が適用されている。図1におけるAはBより、CはDより優先権がある。

図1



標識のないところの制限速度は、市内では時速 60 キロメートル、市外は時速 100 キロメートルである。そのほか一方通行などに注意を要する。

日本のような多岐にわたる交通違反の検挙はないが、特に留意すべきこととして次のことがある。白バイがサイレンを鳴らして、単独またはVIP車両を先導して通過する時は、付近のすべての車両（自転車なども含む）は速やかに路肩に停止しなければならない。また、国家重要施設付近の駐停車違反は、まれに罰則ではなく発砲される例もある。

(2) 対処方法

交通法規違反を指摘され、警察署に連行された場合は、免許証を没収され反則金を支払うことになる。時には二国間協定の免責条項により放免されることもあるが、良識上からも支払うべき性格のものと考えられる。

事故を伴わない場合の反則金は 4,000 CFA フランである。

7-4 車の修理

(1) 部品

フランス製プジョーと日本製ランドクルーザーの部品は、時々在庫の切れることはあるが比較的容易に入手できる。その他の車種、特に日本製乗用車に関しては、純正部品が高価なこともあって代用部品に駆逐され、代理店でも入手困難な状況である。

(2) 修理工場

多くの車両を抱えている官公庁では、それぞれ専用の修理工場を持ち保守にあたっている。ただし、個人車両をこれらのガレージで修理すべきではない。

ニアメには民間の修理工場が多くあるが、そのほとんどは十分な設備を有していない。比較的安心して依頼できるのは車両代理店（「15-2 自動車」の項参照）の修理工場のみである。

8. 通信

8-1 電話

(1) 一般事情

電話を設置しているのは外国人住居、政府要人宅、大中企業および主要官公庁程度であり、一般住民には普及していない。加えて政府は増加する通信費削減のため、各省庁以外の支局、分室などのラインを停止している現状である。一般に、業務上の連絡は書類で行われている。

電話台数はニアメに3,500台、他県に3,500台程度で、一部を除き自動ダイヤルである。電話台数は少ないものの通信状態は良好であり、JICAレベルの職務では十分利用できる。

(2) 国内電話

ニアメおよび各県庁所在地、並びに主要都市間はダイヤル自動通話が可能であり、郡部では局交換を通じての呼出し式である。料金は市内で一回につき75 CFAフラン、市外は距離が延びるごとに基本料金時間が短くなる。

(3) 国際電話

国際電話もダイヤル自動通話が可能である。日本へも、国際呼出し番号に日本の市外局番の頭の0を除いた番号を続けてダイヤルすることにより、即時に通話できる。通信状態は時間帯にもよるが良好である。

0 0 → 8 1 → 最初の0を取った市外局番 → 電話番号

日本までの通話料金は3分間まで6,750 CFAフラン(1620円)であり、その後1分毎に2,250フラン加算となる。また、月～金(20:00～7:00)、土(13:00～7:00)、日・祝(全日)は20%引きとなる。

8-2 電信

(1) ファクシミリ

電信局長の特別許可を得て設置は可能であり、徐々に普及している。また、ホテルおよびニジェール国際電信公社(STIN)を利用して送受信することも可能である。

(2) テレックス

官公庁、銀行、ホテル、大企業を中心に350台ほど設置されている。ホテルからの送受信も可能である。比較的故障は少ないが、一旦故障すると修復に時間を要する。

(3) 電報

8:00～12:30、15:30～16:30に中央郵便局の電報カウンターで受け付けている。配達制度はなく、私書箱を通じて受け取る。日本への料金は1単語(10文字)350 CFAフランである。

(4) インターネット

ニジェールにアクセスポイントのあるプロバイダは次のとおりである。

詳細は下記に問い合わせるとよい。

JustNet 事務局

〒107-8640 東京都港区北青山1-2-3 青山ビルディング 8F

株式会社ジャストシステム内

TEL 03-5412-2606

8-3 郵便

(1) 一般事情

配達制度はなく、郵便物はすべて私書箱で受けることになる。私書箱は、中央郵便局（Tel 722399、733199）およびプラトー局に設置されている。至急便DHLのサービスもある。

主な郵便料金は次のとおりである。（単位：CFAフラン）

宛先 重量	～20 g	～100 g	～250 g	～500 g	～1 k g	～2 k g
国内	150	465	865	1,440	2,015	2,885
日本	300	870	1,820	3,360	5,230	8,755
象牙国	175	525	975	1,630	2,285	3,270
フランス	225	570	1,060	1,770	2,480	3,535

書留、小荷物、小包などが届いた時は、まずその旨の通知書が私書箱に届くので、それを持参して各窓口で受け取る。小包は中央郵便局から離れた小包局より身分証明書を提示のうえ受け取る。小荷物、小包ともに荷受人立会いのもとで荷を解き、税関検査のうえ引き渡される。

検査は公正であり、ほとんどの品は問題なく受け取り可能であるが、ビデオテープの場合は数日間留置され、検閲を受けることもある。引き取り手数料は580 CFAフランである。

(2) 課税

郵便小包程度の雑貨、食料品、生活用品に課税されることはないが、新品の電化製品、時計などは課税対象となり、購入価格の100%程度課税される。

9. マスコミ

9-1 新聞

(1) 主な日刊紙

国立印刷局が発行している仏語紙『Le Sahel』（発行部数約3,500部、1部100CFAフラン）が当国唯一の日刊紙である。6ヶ月契約（前払い）で定期購読も可能であるが、配達はない。また、同局では日曜版として『Sahel Dimanche』を発行している。

民間発行の新聞（週刊）として『Haske』、『Re-publicain』、『Democrate』、『Anfani』の4紙がある。

(2) 本邦日刊紙

本邦日刊紙はOCSを通じて購読可能であるが、当国には代理店はなく、日本、フランスなどで契約する必要がある。5～7日遅れで指定私書箱に届く。

海外新聞普及協会（OCS）

住所：〒108-0023 東京都港区芝浦2-9

電話：03-3453-8311

FAX：03-3453-8329

(3) 欧米紙

下記の4紙が空港、ホテル、市中のキヨスクで入手できる。定期購読、配達はない。

【Le Monde】1,100 CFA フラン

【Figaro】1,100 CFA フラン

【Time】4,000 CFA フラン

【International Herald Tribune】2,000 CFA フラン

9-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

国営局としてVoix du Sahelがあり、フランス語、ジェルマ語、ハウサ語などで放送を行っている。民放局にはAnfani、R & M、Radio TENERE、Radio SOUDAの4局があり、MW、FMともに同内容の番組を放送している。

(2) ラジオジャパン

ラジオジャパンの日本語放送は、ガボン中継により9:00～9:30、14:00～15:00、23:00～24:00に受信できる。周波数は季節により変更される。

一般的な短波受信機付きラジオの室内アンテナでも聴取できるが、屋外アンテナを設置すれば受信状態はより良好となる。

NHK国際局編成部

住所：〒150-8001 東京都渋谷区神南2-2-1

電話：03-3465-1111

また、インターネットでも番組表を含む情報提供サービスが行われている。

<http://www.nhk.or.jp/rjnet/>

(3) 聴取可能なその他の外国放送

フランス語、英語による外国放送を多数聴くことができる。特に受信状態のよい放送はVOA、Radio France International (RFI)、Africa No.1、Radio Moscow、BBCである。周波数は時間帯、季節により異なる。

9-3 テレビ

(1) テレビ放送局

ニジェール・ラジオ・テレビ公社 (ORTN) が運営する Tele-Sahel が毎日 19:00～23:30 (曜日により多少変動する) にカラー放送を行っている。

(2) テレビ受信

受信には SECAM 方式を採用している。当国の放送を受信するには海外向けマルチシステムのテレビ受信機が必要であり、これは東京 (秋葉原) の専門店で購入できる。ビデオデッキも同様であり、日本仕様の機械では当国の放送は録画・再生できない。なお、当地にベータ式の機種は出回っていない。

10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ

10-1 映画、演劇

(1) 映画館

ニアメ市内には常設映画館が7館 (Studio、Vox、Soni-Ali-Ber、Zabarkan、Cinema H.D. Stadio、Jangorzo、Bawa Jangorzo) あり、映画以外の催し物も行われている。Studio と Jangorzo を除き、上記の常設館には屋外席もある。

上映作品は中国、インド、フランス、アメリカ製のアクションものが多く、時には話題作も上映される。通常は1本立てであるが、週末は2本立てになるところもある。

料金は屋外席で150～350 CFA フラン、屋内席は500～700 CFA フランである。開館は21:30以降である。

フランコ・ニジュール文化センター、ウマル・ガンダ文化センターなどでも映画を上映することがある。

(2) 劇場

現在、商業演劇は行われていない。

10-2 出版、書籍

(1) 一般事情

週刊誌、月刊誌はニアメでは発刊されていない。主にフランスの雑誌がホテル、書店、外国人が多く住むプラトー地区などで販売されている。

観光関係、歴史関係、小説などに加え少々の専門書もあるが、価格はフランスの約3倍である。取り寄せも可能である。

(2) 書店

書店では文房具も扱っている。主な店には Camico、Librairie Chretienne、Burama、Europa などがあるが、いずれも品揃えは多くない。

10-3 語学学習

(1) 語学学習施設

学習施設はアメリカ文化センターの英語学校のみである。その他各援助機関のスタッフ養成研修所はあるものの、一般の参加は困難である。

アメリカ文化センター

所在地：Grand Marche 前

電話：733169

受講料：40,000 CFA フラン／1学期（3ヶ月）

(2) 家庭教師

知人の紹介、またはアメリカ文化センター、フランコ・ニジュール文化センターなどの掲示板に募集広告を出す方法がある。

10-4 文化活動、文化施設

(1) 一般事情

国立博物館があり、庭園や動物園も併設している。展示品には各部族の文化（家屋、服装、生活など）に関するもの、伝統楽器、地理、歴史関係のものがある。

フランコ・ニジュール文化センターには図書室がある。また、美術展、ファッションショー、語学教育、音楽会、映画会などを開催している。

Palais des Congres では国際会議が行われるほか、音楽会、映画会、各種の催し物がある。また、同様の施設としてウルマ・ガンダ文化センター、アメリカ文化センターなどがある。

(2) 日本・友好協会などの有無と活動内容

日本には日本・ニジェール友好協会がある。また、海外ウラン資源開発(株)が日本における名誉領事館として旅券の発行などを行っている。

(3) その他の文化活動、文化施設

該当情報なし。

10-5 写真、ビデオ

(1) 写真

フィルムはコダック製品などが出回っているが、価格は日本の3倍程度である。DPEも可能だが、価格は同様に高い。即日現像も可能である。カメラ用品は日本から持参した方がよい。

(2) ビデオセット

まず、VHS、ベータ方式とは別に、映像を送り出す方式として次の3方式があり、これらの方式が異なると現地放送の録画・再生は不可能であることを念頭におく必要がある。

a) NTSC方式……日本、アメリカ

b) PAL方式……ヨーロッパ

c) SECAM方式……ニジェールなど

日本でビデオ装置を購入する際、マルチシステム（SECAM方式を含む）の装置を選ぶよう留意すること。もちろん、日本から持参するテープ（NTSC方式）を再生するだけであれば、日本仕様の機械でもよい。なお、新品の電化製品を持ち込む場合は、免税申請時に購入時の領収証の添付が必要である。

当地でもビデオ装置は購入可能であるが、20万～30万CFAフランと高価である。

(3) 各種テープ

VHSの生テープは購入可能であるが、ベータ方式はない。

貸しビデオ店は2～3あるが作品の種類は少ない。また、SECAM方式のテープのみである。

送付されたビデオテープは検閲を受けるため、受け取りに時間を要する。

10-6 音楽鑑賞、演奏、民族楽器

(1) 音楽会、コンサート

国内外の人気ミュージシャンのコンサートや、友好国文化使節団による公演がときどき催される。フランコ・ニジェール文化センター、ウマル・ガンダ文化センターが会場になることが多く、頻度は月に1～2回程度である。クラシックのコンサートはほとんどない。

(2) コーラス、演奏グループ

サマリヤと呼ばれる、日本の青年団のような青年の社会参加の場として作られた組織がある。伝統音楽、歌、踊りなどを行っているが、邦人の参加はむずかしい。

アメリカ人のグループ（アメリカレクリエーションセンター、Tel 732094）があり、

仲間内で小演奏会などを開いている。

(3) ピアノなど

いわゆる楽器店はなく、クラシック楽器の調達は不可能である。

(4) CD、レコードなど

ミュージックテープが主流である。ミュージックテープの公定価格は 1,000 CFA フラン (約 240 円) となっているが、行商人によって値段は異なり、一定ではない。一見してオリジナルテープのような装丁であるが、テープ背面のツメが折られているものはなく、すべて海賊盤と思われる。

レコード店は複数あるが、品揃えは多くない。CD も一部で販売されている。

(5) 民族楽器

伝統的民話を語る「グリオ」達は、各種のタムタムや笛を持っているが、一般的ではなく、種類は少ない。リュートに似た弦楽器やひょうたん (共鳴具) をつけた木琴などもあるが、これらは土産物の色合いが濃い。学習施設は特にない。

(6) その他の楽器

該当情報なし。

10-7 手芸、絵画、美術工芸など

(1) 手芸

手芸用品は、Grand Marche 内および付近の生地店で入手可能である。フランス製の手芸用品は「女性と子供の専門店」(Petit Marche 横) でも入手可能である。

(2) 絵画、美術工芸

画材専門店はない。油絵などの用具は文具店を通じてとり寄せることになる。国立博物館内の美術工芸アトリエは優れた技術を持っている。

10-8 趣味

(1) 園芸

高温のため、キャベツ、白菜、レタスなどの栽培は難しい。その他の野菜類は播種時期を選び、水管理をすれば家庭で栽培が楽しめる。種苗はスーパーマーケットなどでも購入可能であるが、種専門店もある。

マンゴー、バナナ、パパイヤ、かんきつ類などの果樹を植えるのも楽しい。バラや観葉植物もあり、これらの苗木はニジュール川沿いの植木店で購入できる。

(2) 釣り

ニジュール川沿いで可能である。ただし、ニアメ市内では釣り場が決められている。テラピア、ナマズなどがよく釣れ、まれにキャプテンの大物がかかることもある。川辺の土を少し掘れば、餌となるミミズはたくさん出てくる。また、ルアーで試みるのも一興である。ただし、当地での釣り用具の調達は困難である。

10-9 娯楽、遊戯など

(1) 娯楽、遊戯、ゲーム

スロットマシン、テレビゲームを中心とした遊戯施設はいくつかあるが、設置機種は多くない。ビリヤード台を備えたバーがある。

邦人には将棋、マーじゃんを楽しむ人もいる。道具は持参した方がよい。

(2) レジャーランド、娯楽場、遊園地

レジャーランドや遊園地の類いはない。フランコ・ニジェール文化センターを中心に邦人にも楽しめる興行があり、月毎のプログラムが発行されている。

10-10 スポーツ

水泳、テニスが主流である。

(1) テニス

次のホテルのテニスコートが利用可能である。

Gaweye……………1人1時間 2,500 CFA フラン

Les Roniers ……1人1時間 1,500 CFA フラン

Terminus……………1人1時間 1,000 CFA フラン

(2) 水泳

次のプールが利用可能である。

Gaweye……………1人2,500 CFA フラン。循環濾過器が常に作動しており、水質は最もよい。外国人の利用が多い。テニスコートもある。

Les Roniers ……1人1,500 CFA フラン。会員になってもよい。テニスコートもある。

Terminus……………1人1,000 CFA フラン。会員制。テニスコートもある。

Sahel ……………1人500 CFA フラン。公式競技用の50メートルプール。当地の青少年の利用が多い。水質はよくない。

(3) その他のスポーツ、用具、ウェア

バレーボール、バスケットボール、柔道、空手、ボクシング、サッカー、自転車などの種目別連盟があり、外国人も参加できる。ほかに乗馬、ウインドサーフィンも可能である。

大きなスポーツ用品の情報はスーパーマーケットなどに掲示される。小物は持参した方がよい。

(4) スポーツクラブなど

Club Natigue……………ボート、ウインドサーフィン (Tel 732455)

Club Equestre de Niamey ……乗馬 (Tel 722830)

Club Hippique ……………乗馬

Club de Judo-Karate ……………柔道、空手 (Tel 723271)

Golf Club de Rio Bravo

Club International des Femmes

10-11 子供の遊び

子供の遊び場は実に少なく、ホテルにブランコやすべり台がある程度である。もともと、子供は大人の気づかない道具で遊びを見つけることができる。創意工夫が大切である。ニジェールの子供達はタイヤを押ししたり、ボールの代用品をみつけてサッカーを楽しんでいる。

11. その他のサービス

11-1 金融機関

該当情報なし。

11-2 コンピュータ

該当情報なし。

11-3 美容院・理髪店

路上でのひげ剃り、散髪師の他、カット、パーマ、シャンプーを行うサロンが数軒ある。各サロンの料金は次のとおりである。

Mona Lisa

カット 6,000 CFA フラン、パーマ 19,000 CFA フラン

Criniere

パーマ 約 16,000 CFA フラン

Christ'in Coiffure

カット 8,000 CFA フラン、パーマ 22,500 CFA フラン

上記の各サロンでは男性のカットも同料金で可能である。また、ホテル・ガウエ内の美容院でも男性のカットが可能である（8,000 CFA フラン）。

シャンプー、リンスはスーパーマーケットでフランス製品を購入できる。日本製品はないので、特に愛用している物があれば持参するとよい。また、子供用に散髪セットを持参すると便利である。

12. 観光

12-1 地方旅行上の留意点

交通手段としては国営バス (SNTN) またはレンタカー、自家用車などを利用することになる。ニアメを出る際に検問があるので、車両証明書などが必要である。

目的地までに未舗装の道路がある場合は、乗用車での旅行は避けた方がよい。特に雨季は危険を伴う。

サハラ砂漠への旅行は魅力的であるが、砂漠の気温は0℃近くになることも多く、周到な準備が必要である。また、天候の不順な5～9月は特に危険であり、旅行社でもこの間は砂漠ツアーを行わない。個人的にガイドを頼んで行く場合でも車両2台以上が必須であり、1台での単独走行は許可されない。ただし、1992年2月以降、治安上の理由から砂漠旅行は禁止されている。

平成10年10月15日現在、北緯15度以北と東経9度以東の地域は日本政府より観光旅行延期勧告が出されている他、欧米諸国でも同様の注意を促している。したがって同地域への観光は避けるべきである。

なお、写真撮影には内務省発行の許可証を必要とする。

12-2 主要観光地・保養地ガイド

<タポアWパーク (国立W野生動物公園) >

ニジェール、ブルキナ・ファソ、ベナンの3国にまたがる国立公園で、ユネスコの世界遺産に登録されている。ニジェール側の入り口はタポアである。園内は車両入場以外許可されないの、レンタカー、自家用車で行く必要がある。6～10月は閉鎖される。動物の数はケニア、タンザニアの動物公園に比べると少ない。

宿泊施設として、4つ星相当のホテルが同公園の開園季節に合わせて営業している。予約はニアメのHotel Gaweye (Tel 723400) を通じて行う。

<その他の観光地>

アヨロ……野生カバ、舟下り、付近の集落見学。

ブボン……中州キャンプ場 (ニジェール川)

ナマロ……キャンプ場 (ニジェール川沿い)

いずれも交通手段はレンタカー、自家用車などである。

12-3 旅行

(1) 自動車

ガソリンは各県庁所在地で購入できる。砂漠旅行には予備タンクが必要である。ガソリンの価格は地域によって異なるが、ニアメ市内では1リットル340 CFAフラン(約81円)である。

(2) バス

国営バス (SNTN) は外国人旅行者にも利用されている。予約が必要である。

(3) 鉄道

鉄道はない。

(4) 航空機

ニアメ～アガデス～アーリット往復が週3便(月、水、金)ある。料金は、ニアメ～アガデス間往復356,000 CFAフラン、ニアメ～アーリット往復410,000 CFAフラン

である。小型機のため事前予約が必要である。

その他の都市へは、Nigeravia 社 (Tel 733064) にて小型機のチャーターが可能である。

12-4 旅行代理店

エージェントは上記 Nigeravia 社 (Tel 733064) 1 社のみである。

12-5 ホテルなど宿泊施設の手配

電話、テレックスによる直接予約でもよい。AMEX、VISA などのクレジットカードやフランス・フランでの支払いも可能である。

13. 治安、緊急時の心得

13-1 暴動、クーデターなど

(1) 緊急時の連絡

当国には日本大使館がないため、緊急時にはまず在コートジボアール日本大使館から JICA/JOCV 駐在員事務所または専門家に連絡がある。ここから JOCV 隊員および企業などの駐在員につながるよう連絡網が作成されている。また、短波放送による大使館からの指示もある。周波数は 11200.0 キロヘルツ、放送時間は 9:00、12:00、18:00 である。救急警察の電話番号は 17 番、消防は 18 番である。

13-2 強盗、盗難

(1) 一般的治安状況など

スリ、コソ泥、および長期旅行中の留守宅における盗難の被害は多く、邦人宅への押し込み強盗の例もある。その他の犯罪件数は多くない。

(2) 防犯対策

アパートの出入り口にはガードマンがいる。一戸建ての場合は個人でガードマンを雇う必要がある。ガードマンに笛を持たせ、近隣ガードマンとの協力態勢を整えておくのもよい。また、犬を飼うのも効果的である。

クーラーを外し、その孔から侵入される例があるため、クーラーの外側に鉄格子のあることを確認しておく必要がある。

(3) 被害時の心得

大抵の場合、侵入者は家人などに気づかれると逃げ去るが、万が一こちらに向かってきたり押し入ってきた場合には、抵抗せずに相手の要求どおりにすること。相手の目的は金品であることを念頭に、冷静に対応することが肝要である。

被害は速やかに警察に連絡すること。

13-3 火災、風水害、地震

(1) 一般的災害発生状況など

火災は多くない。これは家屋の構造に起因していると考えられる。

降雨の前ぶれとして風が起こる。5~7月のモンスーンでは立ち木が折れたり、電線が切断されることもある。10~12月のハルマッタンも同様である。

大規模な水害の例はないが、排水施設の整備がなされていないため、窪地に雨水がたまりやすく家屋が浸水することがある。

地震の可能性は低い。

(2) 防災対策

火災に備えて消火器を設置しておくことよい。

台風に備え、高い木は枝を切る必要がある。特にユーカリなどは成長が早いため、放置しておくことと落雷の可能性はある。

常時3日分程度の食料を備蓄しておくことよい。断水もよくあるので、飲料水と生活水の確保も必要である。また、停電に備えてろうそくや懐中電灯を用意しておく必要がある。

(3) 被災時の心得

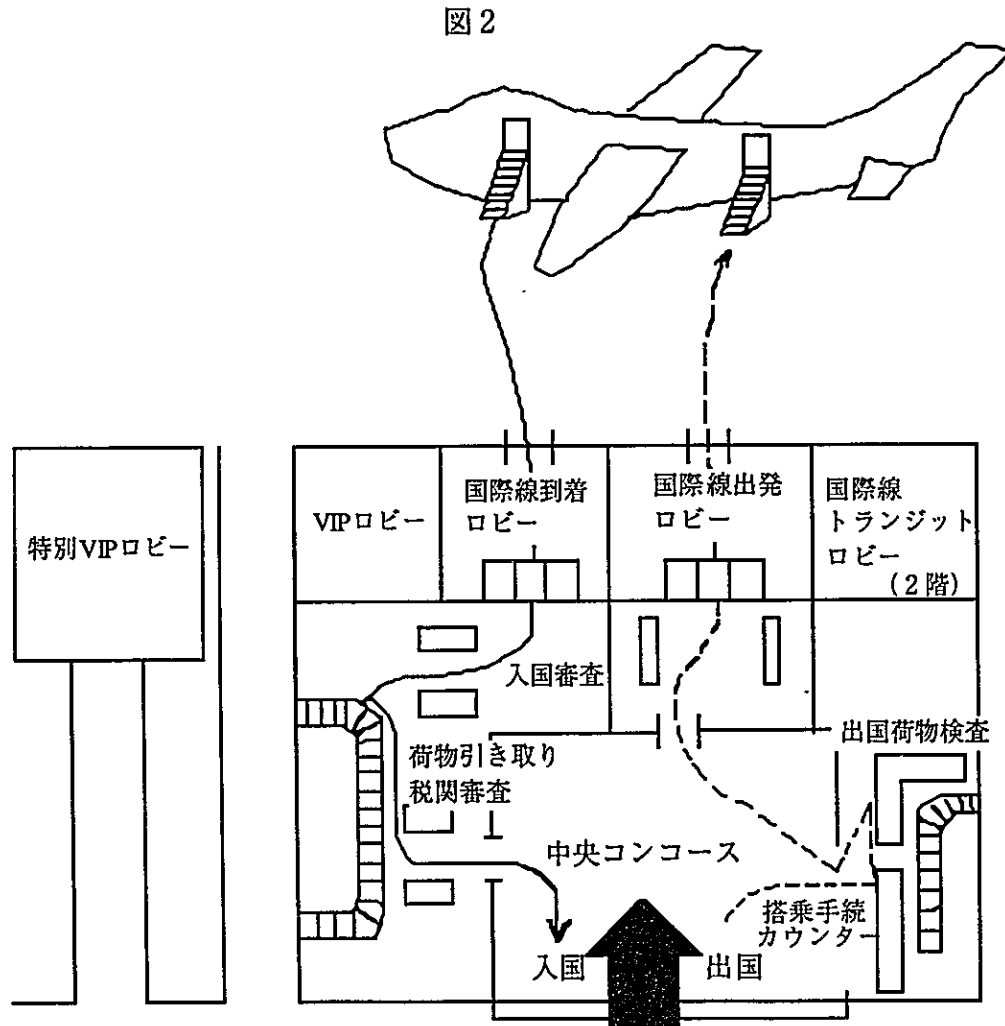
家屋に損傷を受けた場合は、家主または不動産代理店に連絡する。

14. 出入国手続および帰国手続

14-1 入国時

(1) 空港施設概要

パスポートコントロール、手荷物検査、検疫、税関の順にまわる。図2を参照されたい。



(注) トランジットロビー以外はすべて1階

(2) 入国手続書類

入国カードは機内で配付されるので、あらかじめ記入しておく。ビザは入国前に取得する必要がある。黄熱病予防接種済証明書（イエローカード）も必要である。

外貨持ち込み額、税関および検疫に関する書類は特にない。

(3) 入国審査

記載済み入国カードを旅券と共に審査官に提示する。手荷物検査は厳重で、1人ずつ別室で行われる。

(4) 税関検査

免税で持ち込めるのはタバコ 200 本、酒類 1 リットルまでである。新品の電化製品は課税されることがある。ビデオテープは検閲のため 1 週間程度預けることになる。コンピュータは商工業省の許可を要する。ポルノ関係は厳禁である。外貨持ち込み額は特に問われない。

(5) 空港内での留意点

当然のことながら、不審な行動は慎むべきである。空港周辺および軍事施設の写真撮影は禁止されている。また、淫らと見なされる服装は注意を受けることがある。

入国ゲートを通過するとポーターが多勢押し寄せる。職員は胸に写真入り証明札をつけているので彼らに依頼するとよい。バッグ 1 個につき 500 CFA フラン程度である。

(6) 空港からの主な交通手段

事前連絡があれば JOCV / JICA 事務所員の出迎えが可能である。ホテルを予約している場合はホテル専用バスを利用することもできる。

タクシーが待機している。空港から市内まで 2,000~3,000 CFA フランである。

(7) その他の留意点

空港内では外貨交換はできないので、入国前にフランスなどで準備しておくといよい。CFA フランは西アフリカ諸国同一通貨なので、コートジボアールから入国する際はそのまま使用できる。フランスフランも通用する。

入国ビザは 3 ヶ月で無効となるので、期限までに滞在ビザ（1 年間有効）を取得する必要がある。

14-2 出国時

(1) 出国時の概要

図 1 を参照されたい。搭乗券入手後、機内持ち込み荷物の検査を受ける。出国カードを記入して出国審査を受ける。

(2) 出国手続上の留意点

再入国は、長期滞在ビザの有効期間内であれば問題ない。出国中に失効する場合は、再度入国ビザを取得すればよい。

14-3 帰国手続

(1) 帰国時に必要な事務手続

水公社 (SNE)、電気公社 (NIGELEC) の解約手続きを済ませること。

(2) 車の処分

二国間協定のもと免税購入した車両は、同じく免税対象者にのみ売却することができる。スーパーマーケットなどに広告を出して買い手を探すことになる。買い手が決まったら、運輸省にて車両証明書 (カルト・グリズ) の名義変更を行う。

(3) 家財道具の処分

日本へ郵送する場合は、10 キログラム以内の小包にして小包局より発送する。

アナカンを利用する際は旅券の提示が必要である。運送業者は数社あるが、個人が直接空港に運ぶ例が多い。運送業者は次のとおりである。

NITRA

所在地：B.P.560 Niamey

電話：732253

Transcap-Niger

所在地：B.P.11622

電話：732602～3 (Fret Aerien)

当地で処分するには、スーパーマーケットなどに広告を掲示して買い手を探す、バザーに出すなどの方法がある。

(4) 住宅の明け渡し

家主への通知は明け渡しの3ヶ月前が通例である。入居時と比較して家屋が損傷している場合は、修理代を支払うことになる。備え付けの家具についても同様である。

(5) 外貨持出し規制

CFA フランの CFA フラン圏外への持ち出しは禁止されている。

銀行口座の解約は開設した窓口で行う。本邦送金口座は外貨口座なので、残金は制限なく外貨引き出しができる（現金、トラベラーズチェックのいずれも可能）。また、国外への送金も可能である。手持ちの CFA フランは外貨交換できない。

15. 私財の輸送、引き取り、購入

15-1 家財道具

(1) 輸送業者

NITRA（「14-3 帰国手続」の項参照）がある。

(2) 輸入手続

必要書類はB/L、インボイス、パッキングリストである。二国間協定に基づき、免税対象者は本人の入国後6ヶ月以内に到着する身の回り品、および家庭用品は免税される。新しい電化製品などがある場合は、荷物の引き取りに購入時の領収証（日本語可）を持参する必要がある。

(3) 輸入荷物の受取り港

該当情報なし。

(4) 家財道具の購入

JICA 派遣専門家が当地で輸入家庭用品を購入する際、通関税は免除される。しかし付加価値税（TVA）については、A1 フォームに具体的に明記されていないという理由から免除は難しい。

15-2 自動車

(1) 一般状況

最も近い港でも当地から1,000キロメートル以上離れており、さらに他国を通るため（通行税が生じる）、車両の輸入は困難である。当地でもプジョー、メルセデス、トヨタ、日産などの車両が購入可能であり、経費面から見て当地での購入が賢明かと思われる。

(2) 輸入手続

B/L、インボイスを添付のうえ免税手続きを行い、車両登録をしてナンバーを取得する。個人で所有する車両には付加価値税が17～25%課される。

(3) 任国での購入

新車購入の場合は、関税の免税手続きの後、付加価値税免除申請を行う。ただし自家用車は免税対象外であり17～25%の付加価値税が課される。

JICA 関係者などから自家用車を購入する場合は、売却証明書を添付のうえ、車両証明書の名義変更を運輸省にて行う。

各代理店の取り扱い内容は次のとおりである。

TOYOTA…………トヨタ車、日野トラック用パーツ、ヤマハ（バイク）

SONIDA…………日産車、スズキ車、三菱車、プジョー、ルノー

SEAN…………メルセデス、シトロエン

Peyrissac …スズキ（バイク）

(4) 自動車登録

所有者の住所、氏名、車両番号および積載量などを登録する。この際2万5,000 CFA フランの印紙が必要である。その他税金などはない。

(5) 免許証取得

運転免許の分類は国際免許と同様であり、50cc以下のバイクは免許の必要がない。国際免許証の有効期間は1年であり、その後の更新発給は行われないため、ニジェー

ルの免許証に切り替えることになる。これは日本の免許証にその翻訳を付し、運輸省に申請する。ニジェールの免許は無期限に有効であり、更新はない。この間、日本の免許証は運輸省で保管され、帰国時に免許交換を行う。

自家用車の車検制度はない。

(6) 保険、税金

保険会社は数社あり、通常1年契約である。掛け金は補償内容や車種にもよるが、一般的なもので年間50万～125万 CFA フランである。また、過去に事故を起こしている場合は高くなる。登録時のみ税金2万5,000 CFA フランを支払う。

保険会社は次のとおりである。

UGAN

所在地：B.P.423 および 11935 Niamey

電 話：734961

LEYMA

所在地：B.P.426 Niamey

電 話：735574、735526、735541

16. 社交

16-1 風俗習慣

ニジェール人同士では休日または平日の夕刻など、互いの家を訪問しあうことが習慣とされているが、外国人との家族づきあいはまれである。

ほとんどの人がイスラム教徒のため、豚肉は食せず、酒もあまり飲まない。ラマダン（断食）が行われる。

16-2 パーティーでの留意点

酒を勧める場合は、飲むか否かを尋ねてからの方がよい。

16-3 来客時の留意点

当地の人をもてなす場合は豚肉を使わないこと。酒も控えめにするのがよい。

特に邦人が多い席などで、日本語だけで会話をするのはどうかと思われる。良識を持ってもてなすべきである。

16-4 訪問時の留意点

子供のいる家庭には、日本の品を持参すると喜ばれる。

16-5 禁止されている言動

左手での物の受け渡しは避けること。

17. 任国官公庁

執務時間は、9月中旬から2月は7:30~12:30、15:00~18:00、それ以外の期間は7:30~12:30、15:30~18:30である。各省庁の電話番号は次のとおりである。

外務・協力省	722112、722465、722907
農牧省	733541、732058、722155、733422
商工業省	723467、734166、734163、732974
通信・文化省	722874、722074、722821
国防省	722076、723203
社会開発・人口・婦人児童省	722330、723505、735703
国民教育省	722280、722677
高等教育・アフリカ総合工学省	722620、723635
経済・財務省	722374、722037、725179
公務員・労働省	732231、732242、732943
水利・環境省	734722、723889
内務・国土整備省	723262、723210、722271
青年・スポーツ・国民連帯省	722681、723235、733603
法務・人権省	723131、722094、723360
鉱山・エネルギー省	723851、734582
計画・民営化省	722389、723617、722233
観光・民芸省	736138、
保健省	722531、722782、722808
公共事業・設備省	735357、722209
運輸省	734782、735489

18. 在外日本関係機関など

JICA/JOCV ニジェール駐在員事務所

所在地：B.P.10036

電話：735569

農用地整備公団 (JARDA)

所在地：B.P.12822

電話：735892

19. 地方都市

現在、地方都市に居住している邦人は、JOCV 隊員のほかはテッサワに居住する JICA 専門家 (医師) 一名のみである。

任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は政府間技術協力のために開発途上国へ赴任する専門家などの JICA 関係者が任国への入国および滞在するために必要とされる情報、とくに生活情報を提供するものです。

専門家などの JICA 関係者は、技術協力協定などの国際約束に基づいて派遣されておりますので赴任国で課せられる税金が免除されることがあります。任国情報はこうした関係者を対象として作成されておりますので、あらかじめご了解願います。

-----アジア地域-----

- 1.バングラデシュ
- 2.ブータン
- 3.ブルネイ
- 4.カンボディア
- 5.中華人民共和国
- 6.インド
- 7.インドネシア (ジャカルタ、バンドン、
ジョグジャカルタ、メダン)
- 8.大韓民国
- 9.ラオス
- 10.マレーシア
- 11.ミャンマー
- 12.ネパール
- 13.パキスタン
- 14.フィリピン
- 15.シンガポール
- 16.スリ・ランカ
- 17.タイ (バンコク、チェンマイ、コンケン)
- 18.ヴェトナム
- 19.モンゴル

-----中近東地域-----

- 1.アルジェリア
- 2.バハレーン
- 3.エジプト
- 4.イラン
- 5.ヨルダン
- 6.クウェイト
- 7.モロッコ
- 8.オマーン
- 9.カタール
- 10.サウディ・アラビア
- 11.スーダン
- 12.シリア
- 13.テュニジア
- 14.トルコ (アンカラ、イスタンブール)
- 15.アラブ首長国連邦 (ドバイ、アブダビ、7777)
- 16.イエメン (サナア)

-----太平洋地域-----

- 1.フィジー
- 2.キリバス
- 3.ミクロネシア
- 4.パラオ
- 5.バプア・ニューギニア
- 6.ソロモン諸島
- 7.ヴァヌアツ
- 8.西サモア
- 9.トンガ
- 10.マーシャル諸島

-----欧州地域-----

- 1.カザフスタン
- 2.キルギス
- 3.ポーランド
- 4.タジキスタン
- 5.トルクメニスタン
- 6.ウズベキスタン
- 7.ハンガリー
- 8.ブルガリア
- 9.チェッコ
- 10.ルーマニア

-----アフリカ地域-----

- 1.ベナン
- 2.ブルンディ
- 3.カメルーン
- 4.カーボ・ヴェルデ
- 5.コモロ
- 6.エチオピア
- 7.ガンビア
- 8.ガーナ
- 9.ギニア
- 10.ギニア・ビサオ
- 11.コートジボアール
- 12.ケニア
- 13.リベリア
- 14.マダガスカル (アンタナナリボ、アンチラナナ)
- 15.マラウイ
- 16.モーリシャス
- 17.モザンビーク
- 18.ニジェール
- 19.ナイジェリア
- 20.ルワンダ
- 21.サントメ・プリンシペ
- 22.セネガル
- 23.セイシェル
- 24.ソマリア
- 25.タンザニア
- 26.トーゴ
- 27.ザイール
- 28.ザンビア
- 29.ジンバブエ
- 30.スワジランド
- 31.ボツワナ
- 32.エリトリア

-----中南米地域-----

- 1.アルゼンティン
- 2.ボリヴィア (ラ・パス、サンタクルス)
- 3.ブラジル(ブラジリア、サンパウロ、リオデジャネイロ、
ポルトアレグレ、ベレーン)
- 4.チリ
- 5.コロンビア
- 6.コスタ・リカ
- 7.ドミニカ共和国
- 8.エクアドル
- 9.グレナダ
- 10.グアテマラ
- 11.ホンデュラス
- 12.メキシコ
- 13.パナマ
- 14.パラグアイ (アスンシオン、エンカルナシオン)
- 15.ペルー
- 16.セント・ルシア
- 17.トリニダード・トバゴ
- 18.ウルグアイ
- 19.ヴェネズエラ
- 20.ニカラグア
- 21.ジャマイカ

「任国情報（ニジェール）1998年版」

平成11年3月31日発行

編集・発行所 国際協力事業団 国際協力総合研修所

〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10番5号

電話 (03)3269-2357

